

新博物館のあり方について（概要）

県立博物館

1 新博物館整備の意義

- 《みえを知り、みえを学び、みえを伝える》
多様な地域性を背景とした三重のアイデンティティ(独自性・個性)を明確するための拠点
- 《県民とともにみえの文化力を高める》
県民の参画によりみえの文化力を高め、次代を担う子どもたちが未来を創造できる拠点
- 《三重の豊かな自然および歴史・文化資産を守る》
危機に直面する三重の自然と歴史・文化資産を保護・保存し、100年、200年先に継承する拠点

3 基本的な性格

三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える「総合博物館」

「みえの博物館ネットワーク(仮称)」の中核としての博物館

各機能が有機的に連動した博物館

博物館資料を幅広く活用する博物館

誰もが自由に利用・参画し、楽しみながら学べる博物館

2 博物館の理念と目的

県民の活動の場となる新たな文化振興の拠点へ

人間力の視点から

- ・生涯学習の拠点
- ・次代の担い手の育成
- ・県民参画による博物館活動と文化振興に携わる人材の育成

地域力の視点から

- ・地域文化の継承
- ・地域づくり、地域課題解決、地域文化の創造
- ・地域アイデンティティの明確化・発信の場

市町や民間博物館とともに高める創造力の視点から

- ・ネットワークの中核的施設
- ・県立博物館でなければできないことの明確化

4 博物館の機能

博物館の基本的な機能(タテ系の機能)

地域・人との交流機能(ヨコ系の機能)	①収集・収蔵機能	②調査・研究機能	③展示・情報発信機能	④閲覧・レファレンス機能	
①学習支援機能	①収集・収蔵機能 ・堅固な収蔵環境確保 ・県内博物館との資料収蔵ネットワーク体制の構築	②調査・研究機能 ・三重の自然と歴史・文化の調査研究 ・地域の課題解決・振興に資するシンクタンク機能	③展示・情報発信機能 ・従来型の博物館展示の見直し ・県内博物館等と連携して「三重県」を内外に発信	④閲覧・レファレンス機能 ・公文書館の持つ資料閲覧・レファレンス機能の一体化 ・資料活用の幅の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生涯学習機会の提供 ・学校教育との連携 ・県民とともに作る博物館 ・県民とともに成長する博物館 ・全県をフィールドとする活動の展開 ・県民等との協働による活動の展開 ・自然・文化保全・活用の担い手育成 ・県内博物館の人材育成・技術支援
②県民参画機能					
③地域活動機能					
④人材育成支援機能					

5・6 博物館施設の整備・管理運営の考え方

- 《立地環境、施設構成、施設・敷地の規模》
公共交通機関・幹線道路で県内各地からアクセスしやすく、他機関との連携もしやすい県央部に立地し、県民参画型を基本に据えた博物館の目的や機能が十分に発揮できる施設構成と施設・敷地の規模
- 《組織・運営形態》
博物館活動を総合的にマネジメントできる体制と評価システムの導入、さまざまな運営形態の検討

さまざまな連携による機能強化

文化と知的探求の拠点づくり

連携

- ・公文書館機能の一体的整備
- ・図書館、生涯学習センター、文化会館等との連携

他の文化振興拠点

みえの博物館ネットワーク

連携

- ・人材育成・技術支援
- ・共同調査・研究
- ・資料収集・収蔵方針
- ・資料収蔵ネットワーク
- ・企画展、展示会やフィールドワークの共同開催

県内の博物館等

地域づくり・地域文化の創造

連携

- ・遠足・社会見学
- ・出前授業
- ・市町や団体、県民などとの協働による地域活動(地域資料の収集、調査、館外展示)

学校・地域

三重の自然・歴史文化の研究推進

連携

- ・共同研究
- ・客員研究員・協力研究員の調査・研究への参画

大学・研究機関